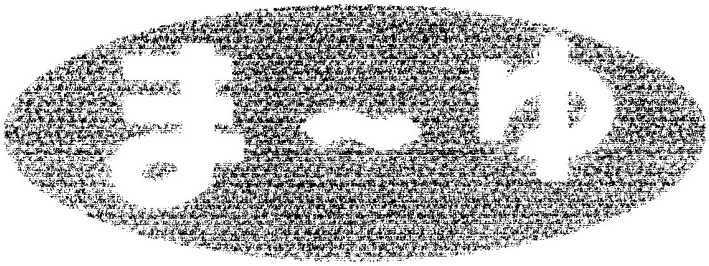
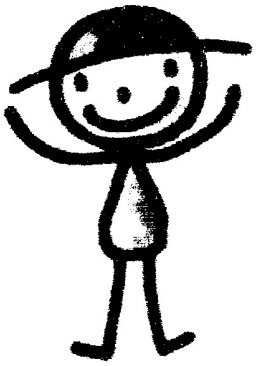
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ





蚕都くらぶま～ゆ会報 **No.9** 2003年1月10日発行

ま～ゆ連絡先　代表 安井啓子

〒386-0001　上田市 上田 2576-16

TEL/FAX　27-3186

メール　ma-yu@ml.melma.com

ホームページ　http://www.ued.janis.or.jp/~ma-yu/

（Yahooの検索で地域通貨ま～ゆでも開きます）

信州上田夏季大学に参加して

地域通貨の可能性

№.2　中島邦夫

昨年９月 7･8 日と信州上田夏季大学第１分科会『地産地消のまちづくりを市民の手で』に参加しました。思えば一昨年、ここの分科会『地域通貨・エコマネーで暮らしやすいまちづくり』に初めて参加したのでした。そこで地域通貨に対する理解と必要性を感じた 10 人ほどの仲間が、なんと 11 月３日に上田地域通貨“蚕都くらぶ・ま～ゆ„を立ち上げてしまったのです。そのきっかけを与えてくれた、誠に意義深い場所だったのです。そして地域通貨を使って昔からあった『結い』の考え方を実践して来た１年の中で、更に地域内で暮らしやすいまちづくりを進め活性化して行く為の方法として、地域内での生産物を地域内で消費するいわゆる『地産地消』の考え方も大切な一つだと考える様になりました。しかし地域通貨とどう関わらせて行くのか、具体的なイメージが湧いて来ませんでした。そんな中で今回の分科会でお招きした二人の講師、市島町の君塚さん、四日市市の海山さんの話は、大変刺激的でありまさに〝目から鱗が落ちた〟の思いでした。

市島町では：環境保護問題から脱サラして人口約１万人の兵庫県市島町で有機農業を始め、市民による『有機のまち』づくり『ふるさと市島未来塾』にかかわり、現在まちおこし専門委員としてＮＰＯ法人『いちじま丹波太郎』の事務局長をしている君塚昌俊さんの話は次のとおりです。(君塚さんは生産者と消費者の真の交流を通しこのＮＰＯ法人を第二の農協にしたいと考えている)。

地産地消とは、地域の持続可能な循環型社会を作るためのプロセスだ。何があるのか、何が出来たのか、そして何が出来るのか足元をよく掘ってみて欲しい。(市島町では有機農業を軸に間伐材を使っての家具作りなど特産品開発を進めている。私たちの地域でもいろんな事が考えられそうだ)

市民活動について、長年やるとくたびれてくる。リーダーが引っ張れるうちに組織化を。(市島町では行政のコミュニティー支援事業の補助金などを使い組織化した)

三重県では：県の呼びかけでスタートした県内産の生産物を県内で消費する運動『地産地消ネットワークみえ』(いろんな団体が参加しており現在会員は 6,700 人）の北勢地域の事務局を担当し、ＮＰＯ法人『地域づくり考房みなと』の常務理事をしている海山裕之さんの話。(海山さんは元調理師)。

長年レストラン経営をしながら市民運動にかかわって来た。一昨年 11 月、四日市市のまちなか空店舗を利用したコミュニティーレストラン『こらぼ屋』をオープン。アマチュアシェフが集まって日替わりで限定ランチを提供している。バラエティーに富んで美味しいとの評判だ。レストランと言うよりギャラリーと考え、民営のコミュニティーセンターとして、市民活動の拠点になればおもしろいと考えている。こらぼ屋のこらぼとはコラボレーションのこと。

今後は本屋との提携などいろいろな協力を考えている。（つい先日も長野県中小企業支援センターの方が見え、地域通貨を使って商店街の活性化が出来ないかと相談して来た。こらぼ屋方式での空店舗利用はかなりおもしろそうで紹介しておいた）

さらに今回驚いたのは『循環者ファンド』創出の試みだ。これはＮＰＯ活動を援助する基金を地域通貨を利用して創り出そうという取り組みだ。カナダのマイケル・リントン氏の考案した「コミュニティーウェイ」を根幹にしている。この方式は、これまで個人を主体とした地域通貨の取引を、企業やＮＰＯなどの幅広い主体も参加出きるようにしている。その流通は

①企業は地域通貨でＮＰＯのプロジェクトを支援する。

②個人は支持するＮＰＯプロジェクトに対し円で寄付をし、見返りに相当する地域通貨を受け取る。

③個人は地域通貨で企業から商品を購入する。

という循環を作るものである。仕組み、構想を考えると、その地域活性化の可能性は計り知れなく、わくわくするものを感じるのである。

このシステムを実際に運用する為にはいろいろな問題があります。しかしまず、意識の高い消費者をネットワーク化（それも相当数）し、受け容れる地域の企業、事業者に働きかけ巻き込んで行けば、実現できるのではないだろうか。ま～ゆの会もコミュニケーション創りの場を母体にした今の雰囲気を大切にしながら、いろいろな課題に挑戦して行きたいと思います。その一つの方法として同好会的なプロジェクトをいくつも実験的に立ち上げ、学習しながら地域内活性化の具体的な方策と実践を提起して多くの仲間の輪を広げ、この循環ファンドのような（最終的には県内での統一通貨位のスケールまで考えられるかも知れない）仕組みが出来ればいいなと強く思いました。

＊NPOとの実際のやり取りは事務局が担当する

のび太さんのまーゆな日々　№07 のび太

初対面なので少々緊張気味に「あのぉまーゆ会員なんですが」と言うと「こんにちは、いらっしゃいませ！」と明るい笑顔で迎えていただいた。

今日は冬用のブーツを新調しようと、初めて甲田さんのお店を訪ねた。

買い物の足は、もちろん自転車なのだ。（しつこくこだわるね、まったく！）

冬の寒さは自転車にとって大敵とお思いのみなさん、なんのなんの、手と耳の防寒さえシッカリして少し走り出せば体ポカポカ、真冬の冷気はかえって心地がよいのです。

何足か紹介いただいたスノトレ（冬用カジュアルブーツ）の中に気に入ったデザイン発見。サイズもピッタシ。値段をみると以外に安く、しかもまーゆで１割引となると少々恐縮してしまいます。まーゆの取引を通帳ですませた後、最近の街の様子を伺ったり、私の好き放題を聞いていただいたりで長居をしてしまう。甲田さん長年のお得意さんが私のすぐ近所にお住まいだった。今日もまた「ひと儲け」ならぬ「人儲け」をして帰路につく。

帰りはゆるい下り坂が続くので快適。今、木町通りは拡幅工事の真っ最中。歩道設置の為に、お店の側は２メートル。向かいの家々は４メートルも下がったと甲田さんお聞きした。道は本来クルマのものではない。実は私の住む地域の国道 18 号線沿いも、歩道設置は地域住民の長年の悲願。木町通りがうらやましい限りだ。

拡幅工事は安藤病院の角までおおむね終わっているようだ。この場所は「痛い思い出」の交差点。あれは小学校３年生の時、友人２人と自転車を乗り回し、先頭を走っていた私が出会い頭、クルマに はね飛ばされた場所だ。そうそう、靴を買った帰りといえば中一の時、ハンドルに買ったばかりの靴箱を下げて、足とハンドルの間にそれがはさまり、ちょうどハンドルがロックされた状態で、バランスを崩して車道側に倒れたところにクルマの急ブレーキ音。倒れたままふっと後ろを振り返ると、頭のすぐ後ろにタイヤがあった。恐怖で足がガクガク、しばらくその場で震えていた記憶は忘れられない。天神町のガード下だった。またまた、上田城お堀端を歩いている人をよけ損ねて自転車もろともお堀に落っこちたり、まあ、自転車にまつわる事故には恵まれて？いました。ホント、よく命があったものだと思います。それもこれも、すべてを道路構造がいけない、では乱暴でしょうけど、あれから何十年もたった今でも歩行者、自転車などの交通弱者（こんな言葉をなくしたい）の安全よりクルマの流れを優先する仕組み（意識もお金のかけ方も）は変えたいものだと思います。

前述の 18 号線にしても、クルマの渋滞が問題だ、とのことで、今年から上塩尻東交差点（西友秋和店角）の左折専用レーンを造る工事が始まるそうです。渋滞による大気汚染の問題は別にあるけれど、きちんとした歩道、自転車道がなくクルマの流れをよくされたのでは、生活道路としてそこを利用する住民はたまりません。ドライバーの目線から、歩行者から見た目線で「道造り」ができればいいですね。

人を引き寄せるま～ゆの糸

こんなま～ゆ交換もありました

プップップポーン。タンターカタンタンターカタン2003年１月１日０時00分、玉姫殿の教会の扉がオープン。会員№73・サザエさんの娘さんの〔カウントダウン結婚式〕が友情出席のわれら５人の祝福も受けて、厳かに開かれました。

新婦は７ヶ月の赤ちゃんを抱えた現代風。その子守りの「お願い」をま～ゆに発信して来たのは１２月の下旬でした。即座に手を挙げてくれたのは　54・てる坊さん。ま～ゆに目をつけたサザエさんの思いつきは正解でした。様子の違う会場に連れてこられて泣いていた赤ちゃんでしたが、てる坊さんの温かな胸に収まるとスヤスヤと寝ついて、お母さん・おばあちゃんを安心させてくれました。

サザエさんの発想はそれだけではありません。「賑やかな席にしたいけれど親戚等が少ないので…」「式に出てくださる方はありませんでしょうか」と助っ人要請もしたのです。「ま～ゆ使いの達人になりましょう」これは安井代表が常に呼びかけている言葉ですが、こういう使い方を思いついたサザエさんには〔ま～ゆ使いの技能賞〕を差し上げたいと思いました。

もちろん次々と「私行かせて下さい」のま～ゆ人が名乗りをあげたのは言うまでもありません。いっしゅう・ごんべえ・サーベッチ・都々平・ひろ坊の５人が(初出場中島みゆきさんの紅白歌合戦を我慢して)雪のちらつく玉姫殿に足を運びました。

控え室でビックリ顔の女性が寄ってきました。「どうしてここへ？」なんと、新郎の妹さんがいっしゅうさんの知り合いだったとは。ま～ゆならではのご対面でした。挙式後のミニ披露宴(ちなみにこのイベントは会場側の全面サービス)でま～ゆ人は目立ちすぎるほど派手に振舞いました。120cm×50cm ものドデカイ祝儀袋(中身は３万ま～ゆ)をここで手渡して、ま～ゆをアピール。あつかましかったでしょうか。前の日、いっしゅう・ひろ坊・都々平の３人で文殊の知恵を絞って、３時間もかけて作成した祝儀袋です。心のこもった３万ま～ゆです。ご親戚の方々が目を丸くされていましたが、これくらいはやってもいいでしょう。

思いがけないご対面をしたいっしゅうさんはま～ゆ市の出席こそ少ないものの、丸子町商工会の人から「ま～ゆって新興宗教なのか？」と揶揄されるほどにのめりこんでいる人です。人と人とのつながりがま～ゆによって一層その色合いを濃くする体験をして、この思いは熱くなるばかり。ま～ゆの繭は人を引き寄せる糸になるのですから。　　都々平 筆

この度何の偶然か、玉姫殿カウントダウン結婚式に応募、当ってしまいました。百人も入れるチャペルで式を挙げることが出来、夢のようです。

ただ、問題が一つ。出席者が20人足らずで大ホールを使うには何とも格好が付かないのです。又、3人目の子がまだ7ヶ月で、式の最中泣き出しはしないかと大変心配です。

年越しで誠に申し訳ありませんが、3000ま～ゆでいかがでしょうか？大勢いればいるほど良いのですが……

サザエこと滝沢早恵美

№61　宮原まち子さん(64)

「本物の食を伝える」

今回は味噌作りプロジェクトやリンゴの受粉や梨の花摘み等で「本物の食作りの楽しみ」を提供してくれる宮原まち子さんを紹介します。

果樹園が広がる上田市芳田。今となっては妙に懐かしい古い集落の一角に宮原さん宅があります。宮原家は暖炉つきの洒落た洋風（古い表現だな）のお家でした。庭の作業小屋には果樹栽培用らしき道具があちこちに置かれて農家の面影があります。

宮原さんは果樹の専業農家。まち子さんは結婚前後は永く学校事務に携わって来ました。ご主人の義久さん（68）は果樹栽培の指導員（プロ中のプロ）です。

今はお二人でリンゴ、ぶどう、梨、ラフランス、プルーンなど、１町歩の畑を耕作しています。１年３６５日、それこそ手塩にかけた宮原ブランドの「安全で美味しい果物」がお二人の自慢です。世間では「農業だけで稼ぐのは大変」と言われますが、ここ宮原家は「しっかりと専業農家」をしています。その理由はもちろん丹精をこめた「宮原ブランド」の力です。人から人に「宮原ブランド」の人気は伝わり、いまやナント「注文を断る」有様となっているようです。

「年とってしまったから今更、規模拡大は無理だ」と少しくやしそう、でも「いいものを作って認められる時代がついに来た」と、チョッと自慢顔の宮原さんご夫婦。

宮原さんの果樹栽培にかける意気込みは尽きる事がありません。お話を聞きながら、この情熱を引き継ぐ若者がどんどん登場する時代になって欲しい！と、つくづく思ったのです。

今やま～ゆ会員の中で極上の味噌として評判の「ま～ゆ味噌」はまち子さんの指導で生まれた味噌です。昔ながらに当たり前に（ここのところが味噌！？）作ると本当に美味しい。それを実証したのが「ま～ゆ味噌」です。ところで宮原さんの近所ではこんな味噌作りをしているところはわずか２軒です。少し前までは約100 戸の全てが共同で味噌つくりをしていたのに瞬く間に減ってしまいました。しかし、これは無くしてはならない「食の技術」です。

今、食の技術を伝え・引き継ぐ事が本当に求められています。宮原さん、これからも楽しい食のプロジェクトを期待しています！

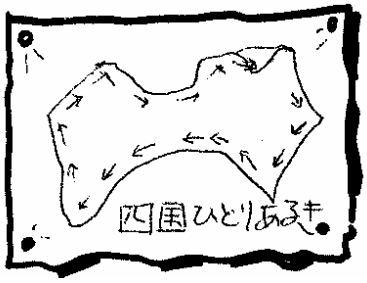
連載

喜多さんの四国八十八ヶ所札所巡り

その弐

お接待

「お遍路さん、お接待させてください」四国の遍路道ではしばしばこんな声を掛けられます。「お接待」、言葉どおりもてなしてくれることです。湯茶をいただいたり、食事の提供であったり、お金を下さることも、ときには一夜の宿を与えてくれることもあります。



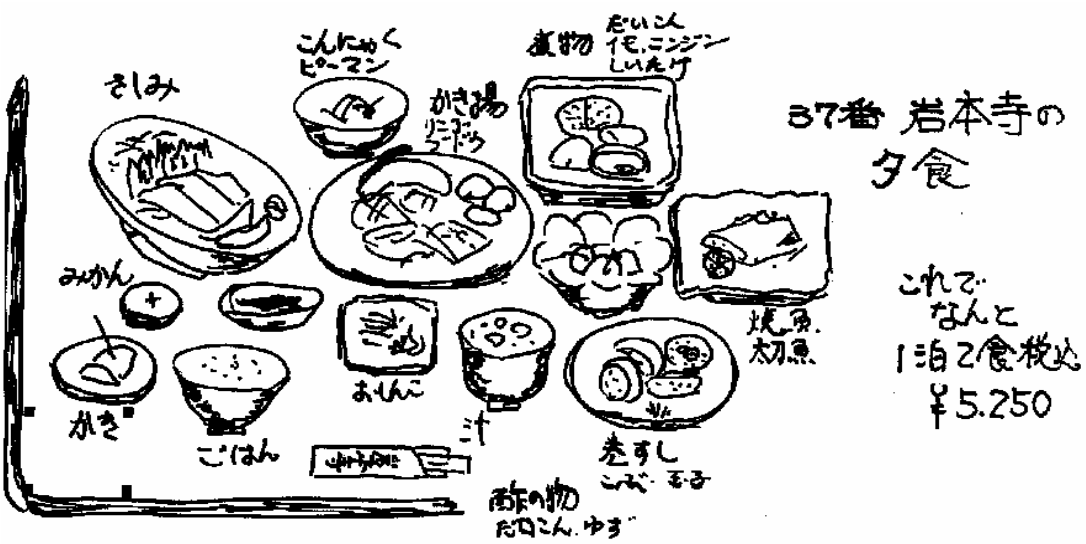
私の遍路は晩秋ということもあり、徳島県では柿をいただいたり、愛媛県では、毎日のようにみかんをいただきました。今年は特に豊作だったようで各地域のみかんを食べさせていただきました。また、食堂では「これはお接待です」と言いながらおかずが一品多くなったり、食後にコーヒーがサービスされたりもします。四十六番浄瑠璃寺門前の遍路宿【長珍屋】さんでは、おかみさんが「歩きのお遍路さんは素泊まりで結構です」と言ってまけてくれました。「これで何か飲んでください」と言って、おばあちゃんがティッシュにくるんだお金を差し出します。ちゃんと消費税分をつけて百十円包んであるところが、嬉しくもあり、おかしくもありと言うところです。

お接待してくださる方は、総じて年配の方、特におばあちゃんが多いようですお遍路さんはお大師様の化身であるとのいわれがあったり、歩いての遍路という自分にはできない形での遍路に、自分の気持だけでも一緒につれて遍路してほしい、そんな気持を【接待】という行為で表し、自分の願意を託しているのではないでしょうか。ここには、官官接待や官僚への接待へのドロドロした下心や、猜疑心での目はありません。『接待』と『お接待』、『お』が付くか付かないかの違いでこれほどに爽やかな気持になれるものでしょうか。

弘法大師が開かれた四国霊場を平安時代の末期頃から真言宗の僧侶が大使ゆかりの地を遍歴し、四国八十八ヶ所の札所もその修行の道場として托鉢しながら順拝が盛んに行われていたようです。江戸時代には一般の人々にも普及してきたようで、『お遍路さん』と呼ばれるようになったのもこの頃のようです。そんな千二百年の歴史の中で育まれた「お接待」という風習は、今でも四国の人々の心の中に生き続けているのです。

インターネットだマルチメディアと叫ぶ現代のデジタル社会において「お遍路さん、ご苦労さまです。お接待させてください」と呼びかける声に、私はアナログ的社会の温もりと安堵感を感じ、からだを熱くしながら遍路の真ん中にいる自分の存在を見つめているのでした。

北村明義



リンクで膨らむ可能性・我がま～ゆ

No.41 木下勝敏

地域通貨と言う言葉がなぜ私にはピンと来たのでしょう。先月、上田市の呼びかけによって結成された百勇士会の一つ「いきいき隊」から地域通貨の実動を発表して欲しいとの依頼がま～ゆにありました。代表のクリスティーヌ女史とごんべいさんも都合が付かないと言う事で鬼太郎・都々平・かっちゃくの3名でその説明に行って来ました。

いきいき隊には介護などのボランティアの活動で地域通貨とのリンクを模索したい、との意向が有ったかのようでしたが、私が予想していた通りそこまでの議論までには至らず、ひたすら「蚕都くらぶま～ゆ」とは何か。と言う説明に終始しました。要するに地域通貨がピンと来ないのです。

はじめの設問に戻ります。なぜ私には地域通貨がピンと来たのでしょう。私は陶芸の仕事をしています。昨年より学校が完全週休二日になり、地域で子供を育てようというように社会の仕組みが変わりました。そこで、地域の親子を集めて陶芸教室を開催しよう！と思い立ち、上田市の教育委員会にその事で役に立てる事は無いかと相談に行きました。その時対応した職員からの返事は「一企業の宣伝になったりするから行政がそのような活動に加担することは無い」との返事でした。私の提案が何か売名行為に裏打ちされた活動と取られた様でした。ま～ゆの精神は前提に善意が有ります。おそらくこの職員にはそう言った思考回路が無いのです。その善意をする方もされる方も認め合う、これが地域通貨です。地域通貨は目に見えません。

その目に見えない通貨が目に見えない垣根を取り払ってくれます。後に私の活動に理解を示してくれる職員が現れて結果的には後援もしていただきました。

「いきいき隊」との会議では私達の説明に対しピンと来た方もいましたが、多くは「そんな事をなぜやらなきゃならないのか？」とか「その仕組みでは依頼する方が圧倒的に多くなり依頼される人とのバランスが悪くなるのではないか？」とか「そんな都合の良い事ばかりではうまくいかないのではないか？」などの懐疑的な感想を述べる人でした。実際あげられた事柄でトラブルは私の知る限りでは今の所起こっていません。出席された皆さんには「実際の所はやってみないと分からないので、ま～ゆ市に一度いらしてください」とお薦めしておきました。私達も実際にやって見て少しずつ分かって来ましたよね。まだまだ発展途上で課題も多い我らがま～ゆですが、いろんな組織とのリンクで更に可能性は膨らむな！と実感しています。

木曜ま～ゆサロンに参加して

№41 木 下 勝 敏

月1回のまーゆ市に都合がつかなかった人や、平日の夜に出掛けられない方々の為に交流の場を新たに作ろう、と言う事で木曜まーゆサロンはスタートしました。毎月第3木曜日の午前 10 時～12 時。場所は、七田チャイルドアカデミー。主催者は会員 Na11 のタケちゃん。活発な「動」のまーゆ市に比べゆっくりと時が流れる「静」のまーゆサロン。この市とサロンと言うネーミングが正に[名は体を表す]の通り絶妙。

私が参加したのは 11 月 21 日と 12 月 19 日の2回。いずれも2人～4人の少人数で薪ストーブを囲みお茶を飲みながらの意見、情報交換。主催のタケちゃんとは「将棋」で趣味が合うのでついついそんな話をしています。当初のターゲットは主婦の方や塩田方面の方などでしたがまだまだ浸透するに至っていません。まーゆ市に行かれなかったと言って参加された方もいて、全く成果が無いわけではないのですが、まだまだこれからです。ただ、あまり何かをしなくっちゃ！と言う感覚から遠いのがこのまーゆサロンの良い所だとも思うのです。

私のように上田に来て年数の浅い人間にとってお茶を飲みにポッと寄れる所があるというのは、何ともホッとするところ。上田にず一と暮らしている人にはピンと来ないかも知れません。じっくりとお話が出来るサロンで、まだまだ何人かの人と交流を持ちたいと思います。先月 12 月 26 日には、まーゆサロン主催の忘年会も開催されその存在を序々にアピールしていっているようです。これからのまーゆサロンにあくまでもほのかな期待。

ニックネームの い・わ・れ

■■■会員にはユニークだったり、難解なニックネームをつけた人がたくさんいらっしゃいます。その「なーに？」をシリーズにしました。

2人目は №27 中村良子の

コボルです

はじめまして～　新参者のコボルです。以後お見知りおきを.z　10 月から参加させてもらっています。すっかりはまってしまったこの頃です。

コボルという名はドイツ語で男の子の妖精のことをコボルと言いますが、私にはとても妖精になんてなれないので、せめてあやかろうと思い、コポル、とつけました。私のお仕事はホテルの朝食作りとお着物の展示会と販売。外資系のフォアペルクの仕事と３ケ所かけもちです。

そこで今の夢は本社のあるドイツに行って着物を着ることです。ドイツから環境を学び、ドイツへ日本の文化を伝える、お互いに共存し合えるものがあれば…と。

環境に関してはドイツから学ぶことは沢山ありますよネ。環境についても勉強中です。

ここで一言、これから皆様も何かを買われる時に、「安い」というだけでなく、環境にいいものを選ばれるよう心がけてみてください。

＜ 在来種の交換会 ＞

2 月 10 日のま～ゆ市で在来種の持ち寄り交換会を開きます。
ご参加ください！

＜ 在来種の学習会お知らせ ＞

トーキングプラザでは在来種の学習会を開催
1 月 24 日(金)・中央公民館・午後 7 時から
問合せ先：安井啓子(□ 27-3186)

＜ ま～ゆ味噌プロジェクトのお知らせ ＞

仕込みは３月中旬予定
場所：宮原まち子さん宅（上田市芳田）
詳しくは№61 宮原まち子さんへ

＜ ま～ゆ新年度･世話人の係分担 ＞

代　　表：----------安井啓子
副 代 表：----------中島邦夫
会　　計：----------田中敏夫･竹田貴一
会　　報：----------黒田弘志･前田光俊･柴田博
名簿管理：----------平沢洋介
ML 情報管理：----------黒田敏子
ま～ゆ市：----------木下勝敏
木曜ま～ゆサロン：-----竹田貴一
会計監査：----------布施教子･城下一秀
地域通貨学習講座：-----我孫子文子･早川潤
田んぼプロジェクト：--中島邦夫
味噌プロジェクト：-----宮原まち子
炭焼きプロジェクト：--城下一秀

＜ ま～ゆまつり 会計報告 ＞

11 月 10 日に開催された「ま～ゆ 1 周年記念イベント」は 60 人に近い参加者が楽しく過ごしました。当日の残金が予想以上の 14000 円となり、世話人会で処理方法を検討した結果、本会計の特別収入とする事になりました。ご了承ください。

2 月 10 日(月)
夜 7 時から
中央公民館で
ま～ゆ市です

ま～ゆ会報ここに置いてあります

●フリーマーケット のんどり
TEL26-9355
上田市上田原･華龍飯店となり

●ネットワークハウス 縁舎
上田市下之郷長福寺境内
（生島足島神社隣）

●熱 勝
TEL29-3880
上田バイパス秋和長野県酒販前

●甲田はきもの店
TEL22-1272
上田市中央４丁目 1-24(木町)

●都々平の自宅(前田商店)
TEL27-1230
上田市秋和(卸団地内)